

私はこんな風に使っています！

むすび農園
阪本 考司さん

このコーナーでは、「自然農法の種子」を活用いただいている方々の栽培や種子に対する思い、使用している自然農法品種についてご紹介します。



むすび農園の阪本さん一家

第7回となる今回は、消費者と生産者が連携する新しい地場農業のあり方を模索する松本市中山地区の「むすび農園」阪本考司さんご夫妻の取り組みをご紹介します。

長野県松本市中山地区は松本市街地（標高590m）よりもさらに標高が高い800mで、松本市街地を見渡せる山地です。中山地区は昼夜の温度差が大きく、耕土が深いため、粘りが強く良質な山芋の産地として有名です。

阪本考司さんは農学系の大学を卒業後、一度はサラリーマン生活を送りましたが一念発起し、神奈川県、長野県、茨城県石岡市（旧八郷町）で農業研修を積み、2008年に茨城県石岡市で一度就農されましたが、東日本大震災を

機に長野県松本市中山地区で再度就農し今年で4年目を迎えます。現在は畑80a、水田20aを経営し、年間60品目以上の作物を栽培しています。

台所から世界平和を願うむすび農園

阪本さんが有機農業を志したきっかけは途上国への旅行経験から世界の貧困問題に関心を持ち、世界の貧困や格差はなぜ起こるのかという疑問に対して先進国の資源の収奪にあるのではないかと考えたことです。そこで、自分たちの食卓に上る食べ物自分たちで作り、それらの生産にかかる資材等もできるだけその地域で産した再生可能なものを使いたいと考えました。いわば「台所から世界平和を

現したい」と阪本さんは有機農業に対する情熱を燃やしています。

人と人との結びつきを大切に

むすび農園の大きな特徴はその名の通り人と人との「結びつき」にあります。

むすび農園ではボランティアを募り、農作業を行います。ボランティアにはその日取れた収穫物をおすそ分けします。

週1回以上農作業や出荷作業に参加するボランティアが約20名と、それ以外に単発で参加するボランティアがいまます。その多くは子供を連れてママさん達です。ママさんたちが農作業で汗をかく中、子供達は畑の回りで遊び始め、



ボランティアの協力による収穫出荷作業





↑ 妙紅の草姿と果実
 ↘ 収穫した完熟の妙紅、消費者からは「味が濃いね」と好評
 ← 育苗に使う踏み込み温床の様子

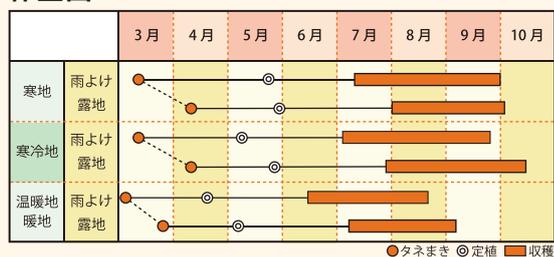
今号の紹介品種 大玉トマト「妙紅」



果重 210 g 程度で濃い桃色の大玉トマトです。裂果に強く、収穫したての果実は硬いので完熟収穫できます。妙紅はトマトモザイクウイルスをはじめとした各種病害抵抗性を持ち、栽培が容易で雨よけ栽培および露地栽培に適しますので家庭菜園実施者の方でも栽培しやすい品種です。

また、甘み・酸味のバランスが良く、コクのある食味で自然農法種子ユーザーから大人気です。ぜひ一度栽培してみてください。

作型図



農園には子供たちの笑い声が
 こだまします。

循環を意識した栽培

夏作の準備は前年の秋から
 始まり、近くの山から落ち葉
 を拾い、それに米ぬかと水を
 混ぜて発酵させた踏み込み温
 床で育苗します。踏み込み温
 床で使った落ち葉は野天で積
 み置きして2年間発酵させた
 後、畑の土と混ぜて育苗用土
 として再利用します。

育土は野菜の残渣や麦わ
 らと地元産の米ぬかを一緒

に畑に鋤き込むシンプルな
 方法です。

自家採種は「命の循環」と
 考え、友人がタイの旅行先か
 ら持ち帰った枕型のスイカの
 種子を譲り受け、自家採種し
 ています。とても甘くて美味
 しい自慢のスイカだそうで
 す。ほかにも自家採種歴3年
 目のズッキーニや7年目のマ
 イクロトマトなどの果菜類の
 自家採種を行っています。

「自然農法種子」は有機農
 業仲間から勧められた大玉ト
 マトの「妙紅」がおいしくて、

しかも露地栽培で実割れが少
 ないため、お気に入りとのこ
 とでした。

むすび農園の 結びの源

むすび農園の結びの源はズ
 バリ「阪本ご夫妻の手柄にあ
 り」と私は取材用のボイスレ
 コーダーを聞き返し、笑いを
 こぼしながら思いました。

楽しいお二人の手柄でむす
 び農園の結びは今後も広がり
 続けることでしょう。

(育種課 巴清輔)